

2019年4月7日

福音書からのメッセージ

そして、息子をぶどう園の外にほうり出して、殺してしまいました。さて、ぶどう園の主人は農夫たちをどうするだろうか。

(ルカによる福音書 20 章 15 節)

「ぶどう園と農夫」というイエス様が語られたたとえ話を、二つの視点から見ていきたいと思えます。まずわたしたちが、そこで働く農夫になったと考えてみましょう。毎日その日暮らして、食べるのに精一杯だったときに、ぶどう園の農夫を募集しているという知らせを聞きます。安定した働き口が与えられることは、とてもうれしいことです。思い切って働くことにしました。「ご主人様は厳しいかなあ」、などと考えながら、そのぶどう園に行くわけです。そこで働きだしたある日、主人から、農夫たちにすべてを任せ自分は旅に出るという言葉が聞きます。

農夫たちはびっくりします。広大な土地。たくさんのぶどうの木。すべてを農夫たちに任せて、自分は旅に出るというご主人様。どうでしょう。そんなこと言われたら、嬉しくならないでしょうか。自由が与えられ、任せられるのです。

わたしたちは実は、この農夫たちと同じように、今、この世界を生きています。わたしたちは何も持たずに生まれ、何も持たずに天に帰っていきます。わたしたちが今、生きているのは、たくさんの恵みを与えられているからです。その恵みを受けながら、わたしたちは収穫を得ます。しかしそれは、神さまが与えられた土台の上で得たもの。ぶどう園の農夫が、与えられた土地で収穫を得たのと同じです。

今日の物語の農夫の行動を客観的に見たら、とてもひどいと感じることでしょう。主人は何も、収穫を全部よこせと言っているわけではありません。農夫たちの取り分も



十分あるのです。しかし農夫たちは、とてもひどい仕打ちを主人にしました。

しかしわたしたちが、自分たちの周りにあるたくさんのも、家族や友達やお金などといったものを、

自分の物だと勘違いしてしまうことと、このぶどう園の農夫姿は同じなのではないかと思うのです。

そして、もう一つの視点です。農夫たちは、ぶどう園の管理を任されていました。それは主人のために収穫を得るだけではなく、ぶどう園で働くことのできない人のこともよろしくという思いがあったと思います。ぶどう園の主人（神さま）が、ぶどう園の農夫（宗教指導者）たちにぶどう園（イスラエル）のことを任せたものの、宗教指導者たちはイスラエルの人たちの中で弱くされた人、罪人とされた人、病気の人たちなどを排斥していきます。つまりぶどう園から追い出したわけです。

豊かに実った収穫をみんなで分けることをせず、自分たちだけで独り占めしてしまう。神さまに恵みを返さなかったばかりか、今、その恵みを必要としている人に渡さなかった。そのことを、イエス様は悲しまれたのです。

神さまから一方的に与えられたものを、神さまにお返しする。神さまからあふれんばかりに与えられたものを、みんなで分かち合う。その思いを持ちながら、歩んで行けたらと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>